

## 大学生の活動報告

### 静岡県の地域課題へのアプローチ

## University Student Activity Report

### Approach to Regional Issues in Shizuoka Prefecture

#### 大学生地域課題対応研究・活動発表

No	大学名	グループ等名称	発表タイトル
1	静岡県立大学	「静岡県立大から発信！県民の健康を支えるための仕組みの提案（グループ2）」	福祉版ユニバーサルパスポートの構築
2	静岡県立大学	「静岡県立大から発信！県民の健康を支えるための仕組みの提案（グループ20）」	静岡県の良さを知る健康づくりツアー
3	静岡県立大学	「静岡県立大から発信！県民の健康を支えるための仕組みの提案（グループ26）」	フードウォーク みんなで参加 健康に

## 1

発表タイトル	福祉版ユニバーサルパスポートの構築
大学名	静岡県立大学
グループ等 名称	静岡県立大から発信！「県民の健康を支えるための仕組みの提案」（グループ2）
参加学生名 (学部・学年) 氏名	中村 洸友・市川理恵子（薬学部1年）、篠瀬さやか（経営情報学部1年）、 岩ヶ谷あゆみ・南條 淑・樺山早紀奈（国際関係学部1年）、 梶山 澄怜（看護学部3年）、前田ちなつ（食品栄養科学部1年）
要 旨	<p>静岡県は日本屈指の健康寿命を誇る県であり、今後益々増加する高齢者に対し、地域に根ざした質の高い介護・福祉サービスの需要が高まっている。私達、静岡県立大学生はユニバーサルパスポート（ユニパ）というシステムを通して、講義の出席記録、学内の情報提供・共有、履修登録などを行っている。本研究の目的は医療福祉においても、高齢者向きの福祉版ユニパを構築できないか、この福祉版ユニパを利用した地域包括ケアが行えないか議論した。</p> <p>私達が提案する福祉版ユニパの機能は、①医療従事者との双方向通信、②日々の体調管理・食事内容の記録、③必要なサポートの依頼、④福祉イベントの提供を統合したものである。</p> <p>①福祉版ユニパで医療従事者と高齢者の双方向通信を可能にし、高齢者の健康相談や不安のケアに役立つものとする。</p> <p>②日々の体調・バイタルチェックや食事内容のデータを福祉版ユニパで一括管理し、高齢者の生活状況の把握や指導に役立つ。また、食事履歴を記録することで高齢者自身も食の楽しみを感じることができる。食事記録をシェア、コメント出来るコミュニティサイトと連携すれば、高齢者同士の交流にもつながる。</p> <p>③福祉版ユニパを介して高齢者が必要とするサービス（訪問・デイケアなど）を依頼する。これを利用することで補助が必要な高齢者の生活の質の向上に繋がる。</p> <p>④福祉版ユニパにて地域で開催される様々な福祉イベントの情報や健康に役立つ情報を提供する。</p> <p>福祉版ユニパの実現にはセキュリティやプライバシーの問題など数多くの考慮しなければならない事項があるが、これらの機能が搭載された福祉版ユニパが有効的に活用されれば、医療福祉体制の更なる充実に寄与すると思われる。</p>

## 2

発表タイトル	静岡県の良さを知る健康づくりツアー
大学名	静岡県立大学
グループ等 名称	「静岡県立大から発信！「県民の健康を支えるための仕組みの提案（グループ20）」
参加学生名 (学部・学年) 氏名	中村 美穂（食品栄養科学部1年）、西井 正道（看護学部1年）、 嶋 美月・山崎 吉隆（薬学部1年）、清久 彦（国際関係学部1年）、 伊藤 光輝・平出 拓也（経営情報学部1年）
要 旨	<p>【背景・目的】平成27年に発表された国の健康寿命調査によると、静岡県は男性が72.1歳（全国3位）、女性は75.6歳（全国2位）であり、全国2位と長寿県であることが示されています。平均寿命は年々伸びているが、さらに延伸させるためには、新たな試みや普及が必要と考える。そこで、本課題に対して、「静岡の健康長寿を支える取り組みと人々」の講義を受けたグループ20において、他分野のメンバーと交流・協議し、「静岡県の良さを知る健康づくりツアー」と題してまとめたことを報告する。</p> <p>【方法】静岡県の健康課題や静岡県の特徴について、各学部（食品栄養、看護、薬、国際、経営情報）が横断的な視点に基づき調査し、カテゴリー化を行い、ブラッシュアップ作業した。</p> <p>【結果】各世代の健康意識を高める策を考える。在留外国人も多いことから、この方々の健康も考え、地域住民と連携する。コミュニティーの環境整備をする。高齢者が困る「身近な課題」を「生きがい」に変える策を考える。これらを組み合わせ、健康維持には、「食」「運動」「休養」の三原則を取り入れ、実践できる健康づくりツアーを考案した。特に、静岡県の名産品と健康との関係性を学び、食する。そして医療に関係する問題を共有し、運動や休養などといったケア方法を理解する。名所を巡ることで静岡県の良さを再認識するとともに地域の活性化に繋げる。世代や国籍を超えたファミリー向けのツアーなどを検討した。</p> <p>【考察】一時点のみの課題解決ではなく、循環・継続型にするためには、大学生といったコーディネーターが必要であると考え。我々がそれらを担うことで、健康寿命延伸、意識改革の実現、それに伴う地域発展に繋がると考えられた。</p>

## 3

発表タイトル	フードウォーク みんなで参加 健康に
大学名	静岡県立大学
グループ等 名称	静岡県立大から発信！「県民の健康を支えるための仕組みの提案（グループ26）」
参加学生名 (学部・学年) 氏名	末永 綾乃（看護学部1年）、小野 早紀（食品栄養学部1年） 尾下 夏海・山田 愛実（経営情報学部1年）、清 真純（国際関係学部1年）、 浅井しほり・高橋日菜子（薬学部1年）
要 旨	<p>静岡県立大学における「静岡の健康長寿を支える仕組みと人々」の講義での学習を元に、グループメンバーが所属する各学部（食品栄養学部、薬学部、経営情報学部、国際関係学部、看護学部）の特色を活かし、県民の健康を支えるための仕組みを提案する。</p> <p>（提案の背景）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①健康な食材の情報入手の困難さ</li> <li>②健康、食材、薬についての相談窓口の不足</li> <li>③高齢者の外出頻度の低下による筋力低下</li> <li>④外国籍の方への情報交換方法不足など</li> </ol> <p>（解決に向けた取組の提案）</p> <p>「フードラリー」とは、健康に良いとされる食材をウォークラリー形式でめぐるイベントで、食品栄養学部は、静岡県で生産される食材の種類が多くあることから、栄養士として健康に良い食材や提供している店舗の抽出、店舗での食材情報の提供を行う。薬学部は、薬剤師として、食材との投薬指導、服薬相談をラリー先で窓口を設置する。国際関係学部は、多国籍の方への日本語以外の情報発信として、役所のラリー案内窓口設置、インターネット等での多言語情報の発信を行う。看護学部は、保健師・看護師としてラリー先でのバイタルサインのチェックや健康相談の窓口となる。経営情報学部は、ラリー実施の情報発信としてちらしの作成、参加状況の情報管理を行う。さらに、病院や薬局、市役所などにて、看護師や薬剤師等の専門職から、直接顔を合わせる地域の方々へラリーの情報提供を実施する。地域のその他の専門職を含めた総合的連携は不可欠である。</p> <p>これらを通して、気軽な外出の機会を作り、運動不足解消の手助けに加え、美味しいものを「食べる楽しさ」、外出先での人と人のつながり、加えて地域活性化によって「また参加したい」と老若男女が継続して意欲的に参加していくことが可能となり、この「フードラリー」が「健康長寿を支える仕組み」になりうると考える。</p>